

平成29年7月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

平成29年6月13日

上場会社名 株式会社ファーマフーズ 上場取引所 東  
 コード番号 2929 URL http://www.pharmafoods.co.jp  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 金 武祐  
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役総務部部長 (氏名) 青笹 正義 TEL 075-394-8600  
 四半期報告書提出予定日 平成29年6月14日 配当支払開始予定日 -  
 四半期決算補足説明資料作成の有無：無  
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 平成29年7月期第3四半期の連結業績（平成28年8月1日～平成29年4月30日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
29年7月期第3四半期	3,401	34.7	△193	—	△152	—	△181	—
28年7月期第3四半期	2,526	—	△335	—	△277	—	△275	—

(注) 包括利益 29年7月期第3四半期 △168百万円 (-%) 28年7月期第3四半期 △294百万円 (-%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
29年7月期第3四半期	△6.25	—
28年7月期第3四半期	△9.50	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
29年7月期第3四半期	5,766	3,326	57.4
28年7月期	4,472	3,496	77.9

(参考) 自己資本 29年7月期第3四半期 3,311百万円 28年7月期 3,482百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
28年7月期	—	—	—	—	—
29年7月期	—	—	—	—	—
29年7月期(予想)	—	—	—	—	—

(注) 直前に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 平成29年7月期の連結業績予想（平成28年8月1日～平成29年7月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	4,500	30.0	50	—	90	268.7	80	208.9	2.76

(注) 直前に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無  
新規 一社（社名）－、除外 一社（社名）－

（注）特定子会社の異動には該当いたしません。第2四半期連結会計期間より、株式会社フューチャーラボ及び同社100%子会社である株式会社メディラボを連結の範囲に含めております。

- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無  
② ①以外の会計方針の変更 : 無  
③ 会計上の見積りの変更 : 無  
④ 修正再表示 : 無

- (4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	29年7月期3Q	29,034,200株	28年7月期	29,034,200株
② 期末自己株式数	29年7月期3Q	－株	28年7月期	－株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	29年7月期3Q	29,034,200株	28年7月期3Q	29,034,200株

※ 四半期決算短信は四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。なお、上記の予想の前提条件その他に関する事項については、【添付資料】3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等)	8
3. その他	9
継続企業の前提に関する重要事象等	9

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

## (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、政府による金融緩和政策の継続を背景に、企業業績や雇用情勢の改善がみられるものの、米国の政策転換の影響などにより先行き不透明な中で推移いたしました。

このような環境下において、当社は「医薬」(Pharmaceuticals)と「食」(Foods)の融合「ファーマフーズ」(Pharma Foods)を目指し、積極的な事業展開を行ってまいりました。

当第3四半期連結累計期間において、当社グループが平成28年11月1日付で子会社化した株式会社フューチャーラボ(平成28年12月31日付で株式みなし取得)の業績連結を行っております。

当第3四半期連結累計期間の業績は、通信販売事業の拡大などにより、売上高は3,401百万円(前年同期比34.7%増)、営業損益は、通信販売事業において積極的な先行投資を行い、広告宣伝費1,552百万円を計上した結果、193百万円の営業損失(前年同期は335百万円の損失)となりました。経常損益は152百万円の損失(前年同期は277百万円の損失)、親会社株主に帰属する四半期純損益は181百万円の損失(前年同期は275百万円の損失)となりました。

通信販売事業において将来を見据えた積極的な投資を上期に集中して行い、費用が先行発生しておりましたが、着実に収益化が進展しており、前年同期比較で業績は大幅に改善しております。

各セグメントの業績の概要は、次のとおりです。

## &lt;機能性素材事業&gt;

機能性素材事業では、当社グループの根幹である機能性素材の開発、販売及び機能性素材を配合したOEM(original equipment manufacturer)製品の企画、販売を行っております。

当第3四半期連結累計期間では、当社の主力素材である「GABA(ギャバ)」の展開に注力してまいりました。国内市場では、引き続き「機能性表示食品制度」への取り組みを積極的に進めております。江崎グリコ株式会社「メンタルバランスチョコレートGABA」、日本ハム株式会社「Healthy Kitchenグリーンラベル減塩ロースハム、減塩ハーフベーコン」等、多くの食品メーカー・飲料メーカーより、当社の「GABA」を配合した機能性表示食品が販売されております。「GABA」に関しては、各種メーカーより「ストレス」「疲労感」「血圧」及び「睡眠」に関する機能性表示届出がされており、受理件数は全機能性素材中、第2位となっております。以上により、国内での売上は堅調に推移しました。

「GABA」の海外展開では、中国、北米等を中心に営業展開を行っております。中国では、前期より複数のグローバルメーカーに当社の「GABA」が採用されております。北米向けではサプリメント製品に当社の「GABA」が採用されており、順調に推移しております。

卵黄由来ペプチド「ボーンペップ」については、同素材が配合されたロート製薬株式会社「セノビック」、オハヨー乳業株式会社「セノビックヨーグルト」などが販売されており、売上が伸長しております。葉酸を高含有した「葉酸たまご」については、低調に推移しております。

この他、当社の根幹技術である鶏卵抗体「オポロン」、卵白由来ペプチド「ランペップ」、卵黄由来ヒアルロン酸産生促進素材「iHA(アイハ)」、鶏軟骨由来ヒアルロン酸産生促進素材「HAS-II(ハス・ツー)」、卵白由来筋力低下抑制素材「サルコペップ」、酵母由来の美白素材「セレブロン」等を販売しております。

また、卵黄由来の新規育毛活性成分「HGP(Hair Growth Peptide)」を配合したサプリメント「ビハツネス」が株式会社シャルレより販売されており、育毛用の新素材として注目を集めております。更に、新規機能性素材「モリング」について研究開発を進めており、今後も売上拡大に向けて開発、営業の両面から積極的に展開してまいります。

OEM製品の販売では、サプリメントメーカー、製薬メーカー、および流通業者等に積極的な営業展開を行い、「GABA」を配合した機能性表示食品等を販売しております。

これらの結果、機能性素材事業の売上高は813百万円(前年同期比11.1%減)、セグメント利益175百万円(前年同期比1.4%減)となりました。

## &lt;通信販売事業&gt;

「通信販売事業」では、当社の独自素材を配合したサプリメント(「タマゴ基地」ブランド)および化粧品(「SOGNANDO」(ソニヤンド)ブランド)の販売を行っております。当第3四半期連結会計期間より、当セグメントに、株式会社フューチャーラボの業績連結を行っております。

当第3四半期連結累計期間では、「タマゴ基地」および「SOGNANDO」において、ラジオ、テレビ、WEB媒体等で、積極的な広告展開を行ってまいりました。また、コールセンター業務を行う株式会社ファーマフーズコミュニケーションを通じて、新規及び既存顧客へのサービス向上に取り組み、顧客の定着化が促進されております。

上記の施策により、主力製品である膝関節用サプリメント「タマゴサミン」及び美肌クリーム「珠肌のうみつ」の売上が伸長しており、収益化が着実に進展しております。

株式会社フューチャーラボでは、テレビ通販番組等を通じて、化粧品の販売を行っております。当第3四半期連結会計期間において、効率を重視した拡販展開と、「タマゴ基地」及び「SOGNANDO」顧客への拡販等を行い、収益化が進展いたしました。

これらの結果、通信販売事業の売上高は2,548百万円（前年同期比61.2%増）、広告宣伝費1,552百万円の計上等により、セグメント損失320百万円（前年同期は415百万円の損失）となりました。

#### <バイオメディカル事業>

バイオメディカル事業では、創薬事業、医薬品・診断薬開発のための抗体受託作製事業、及び素材・製品等の分析・効能評価試験を行うLSI（Life Science Information）事業を行っております。

創薬事業では、当社独自のニワトリ抗体作製技術「ALAgene（アラジン・Avian Lead Antibody GENE）」を用いて新規抗体医薬を創製する「悪性腫瘍プロジェクト」、「関節リウマチプロジェクト」、および新規ペプチド医薬を創製する「骨形成プロジェクト」に注力してまいりました。これら3つのプロジェクトに関しましては、国立がん研究センター等の公的研究機関と共同研究を推進しつつ、国内外の複数の製薬企業と提携交渉を継続しております。

当第3四半期連結累計期間では、抗体受託作製業務及びLSI事業の収入等により、売上高は40百万円（前年同期比31.9%増）、研究開発費の計上等により、セグメント損益は49百万円の損失（前年同期は97百万円の損失）となりました。

#### （2）財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末に比べ1,294百万円増加し、5,766百万円となりました。これは主に、現金及び預金の増加638百万円、商品及び製品の増加396百万円及びのれんの増加248百万円によるものであります。

負債は、前連結会計年度末に比べ1,464百万円増加し、2,440百万円となりました。これは主に、長期借入金の増加802百万円及び1年内返済予定の長期借入金の増加247百万円によるものであります。

純資産は、前連結会計年度末に比べ170百万円減少し、3,326百万円となりました。これは主に、利益剰余金の減少181百万円によるものであります。

#### （3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成29年7月期の連結業績予想につきましては、平成28年9月13日に発表しました業績予想値から変更はありません。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成28年7月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成29年4月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	2,101,254	2,740,151
受取手形及び売掛金	591,650	611,409
商品及び製品	211,695	607,747
仕掛品	3,544	6,062
原材料及び貯蔵品	72,178	42,508
その他	182,892	242,114
貸倒引当金	△3,484	-
流動資産合計	3,159,730	4,249,994
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	277,949	272,214
機械装置及び運搬具(純額)	4,787	3,542
工具、器具及び備品(純額)	49,702	43,222
土地	387,863	387,863
リース資産(純額)	2,585	7,222
建設仮勘定	2,160	5,400
有形固定資産合計	725,048	719,465
無形固定資産		
のれん	1,341	249,970
その他	33,435	47,326
無形固定資産合計	34,776	297,297
投資その他の資産		
投資有価証券	101,673	100,628
関係会社長期貸付金	163,114	138,393
その他	289,970	261,324
貸倒引当金	△1,706	△200
投資その他の資産合計	553,052	500,146
固定資産合計	1,312,877	1,516,909
資産合計	4,472,607	5,766,904

(単位:千円)

	前連結会計年度 (平成28年7月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成29年4月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	89,480	172,818
短期借入金	50,000	50,000
未払金	74,547	311,722
1年内返済予定の長期借入金	199,464	446,688
賞与引当金	1,096	9,537
その他	100,148	119,072
流動負債合計	514,736	1,109,838
固定負債		
長期借入金	429,412	1,232,173
退職給付に係る負債	2,597	48,588
その他	29,082	50,119
固定負債合計	461,091	1,330,881
負債合計	975,828	2,440,719
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,031,278	2,031,278
資本剰余金	1,881,982	1,881,982
利益剰余金	△455,427	△637,009
株主資本合計	3,457,833	3,276,251
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	34,107	33,462
為替換算調整勘定	△9,082	2,012
その他の包括利益累計額合計	25,024	35,474
新株予約権	11,022	8,712
非支配株主持分	2,899	5,746
純資産合計	3,496,779	3,326,184
負債純資産合計	4,472,607	5,766,904

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位:千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成27年8月1日 至平成28年4月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成28年8月1日 至平成29年4月30日)
売上高	2,526,280	3,401,870
売上原価	732,118	700,396
売上総利益	1,794,161	2,701,474
販売費及び一般管理費		
研究開発費	238,157	176,820
広告宣伝費	1,130,082	1,552,569
支払手数料	373,084	373,589
のれん償却額	502	11,502
その他	387,763	780,944
販売費及び一般管理費合計	2,129,590	2,895,426
営業損失(△)	△335,428	△193,952
営業外収益		
受取利息	8,265	6,670
受取配当金	1,723	200
為替差益	-	3,862
補助金収入	50,767	28,402
持分法による投資利益	8,151	-
その他	10,599	16,816
営業外収益合計	79,506	55,952
営業外費用		
支払利息	3,297	4,099
為替差損	11,991	-
持分法による投資損失	-	3,089
解約違約金	-	4,629
その他	6,057	2,628
営業外費用合計	21,346	14,447
経常損失(△)	△277,269	△152,447
特別利益		
新株予約権戻入益	2,135	2,310
投資有価証券売却益	2,153	-
特別利益合計	4,288	2,310
特別損失		
関係会社株式売却損	-	15,574
特別損失合計	-	15,574
税金等調整前四半期純損失(△)	△272,980	△165,712
法人税等	2,286	13,022
四半期純損失(△)	△275,267	△178,735
非支配株主に帰属する四半期純利益	665	2,847
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△275,932	△181,582

(四半期連結包括利益計算書)  
(第3四半期連結累計期間)

(単位:千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成27年8月1日 至平成28年4月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成28年8月1日 至平成29年4月30日)
四半期純損失(△)	△275,267	△178,735
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△11,842	△644
為替換算調整勘定	△7,878	11,094
その他の包括利益合計	△19,720	10,449
四半期包括利益	△294,987	△168,285
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△295,653	△171,132
非支配株主に係る四半期包括利益	665	2,847

## (4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

## I 前第3四半期連結累計期間（自 平成27年8月1日 至 平成28年4月30日）

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			合計（注）
	機能性素材事業	通信販売事業	バイオメディカル事業	
売上高				
外部顧客への売上高	914,596	1,581,110	30,573	2,526,280
セグメント間の内部売上高又は振替高	-	-	-	-
計	914,596	1,581,110	30,573	2,526,280
セグメント利益又は損失（△）	178,287	△415,913	△97,802	△335,428

(注) セグメント利益又は損失（△）の合計額は、四半期連結損益計算書の営業損失と一致しております。

## II 当第3四半期連結累計期間（自 平成28年8月1日 至 平成29年4月30日）

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			合計（注）
	機能性素材事業	通信販売事業	バイオメディカル事業	
売上高				
外部顧客への売上高	813,301	2,548,245	40,323	3,401,870
セグメント間の内部売上高又は振替高	-	-	-	-
計	813,301	2,548,245	40,323	3,401,870
セグメント利益又は損失（△）	175,836	△320,105	△49,683	△193,952

(注) セグメント利益又は損失（△）の合計額は、四半期連結損益計算書の営業損失と一致しております。

## 2. 報告セグメントごとの資産に関する情報

第2四半期連結会計期間において、株式会社フューチャーラボの株式を取得し、同社及び同社の子会社を連結の範囲に含めております。これにより、前連結会計年度の末日に比べ、当第3四半期連結会計期間の報告セグメントの資産の金額は、「通信販売事業」セグメントにおいて、1,520,787千円増加しております。

## 3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(のれんの金額の重要な変動)

「通信販売事業」セグメントにおいて、株式会社フューチャーラボの株式を取得したことにより、同社を連結子会社としております。

なお、当該事象によるのれんの増加額は、当第3四半期連結累計期間において、249,132千円であります。

### 3. その他

#### 継続企業の前提に関する重要事象等

当社は平成26年7月期より継続して、営業損失及び営業キャッシュ・フローのマイナスを計上しております。この要因は平成24年8月より通信販売事業及び平成25年9月より創業事業を本格的に開始し、先行投資を積極的に行って来たことによるものです。先行投資により損失が継続していますが、各事業とも進展し、通信販売事業では収益基盤となる定期顧客数は順調に増加しております。

また、従来からの主力事業である機能性素材事業においても、国内及び海外での営業展開を積極的に行っております。これらの結果、前連結会計年度は経常利益24百万円と黒字を計上しております。

当社の財政状態は平成29年4月末時点で自己資本比率57.4%、手元資金2,740百万円を有しており、事業を継続するための十分な資金、安全性を維持しております。一昨年8月には、通信販売事業の拡大に向けた資金を金融機関から借入れており、中長期間にわたる資金を調達できております。今後も財務の安定性を維持しながら効率的な投資を行っていく方針であります。

以上により、当第3四半期連結会計期間末において、継続企業の前提に関する重要事象等は生じておりません。